

総務・教育・市民・福祉分科会の経過及び中間報告

22.11.26 後藤 分科会代表

1. テーマ

[1] 主要テーマ

コミュニティづくりの推進

【趣旨】

みなさんの「快適な生活を実現したい」という気持ちが集まって、自分の得意なこと、できることを、みんなと一緒に実践することが大切です。

小さなことから取り組んで、大きな輪になることを期待しています。

[2] 柱となる具体的なテーマ

花づくり活動

【趣旨】

市長への提案は、市に要求するだけではなく、まず、自分達でやるのが重要
コミュニティづくりのために何をするのか。その足がかりとして決定した。

四季折々の花が咲いたら、春一番の花がいっぱいになったら素晴らしい。

住民と市と一緒に汗をかき、取り組む必要がある。

2. 経過

◎平成21年9月10日[第1回目]

…分科会で検討するテーマを決めるため、自由な議論を展開した。

【主な意見】

- ・ 快適な生活環境を実現するためには、コミュニティづくりの推進が重要
- ・ 具体的な提案…「防災訓練」、「花をいっぱいにする」、「お祭り」、「子どものイベントづくり」、「健康づくり」、「環境対策」

◎平成21年10月15日[第2回目]

…第1回目の検討を踏まえテーマを決定した。[上記1のとおり]

◎平成21年12月17日[第3回目]

…講演会の開催

演題：「花づくりでコミュニティづくり」

講師：小林先生 緑化推進指導員

【感想】

- ・ 楽しみながら花づくりをすることが大切です。
- ・ 多くの住民がいっぱいの花を育てたら、寺泊がもっともっと素晴らしくなる。

◎平成22年1月29日[第4回目]

…花づくり情報交換会の開催

【参加団体】10団体

花いっぱいフェア実行委員会、CCF（コミュニティ カルチャー フレンズ）、寺泊町商工会女性部、ささりんどう環境保全会、本山地区環境保全協議会、環境保全「大河津ネット」活動組織、寺泊観光協会、JA 越後さんとう寺泊女性部、遊・駅・Thinkす！、求草ほたるの会

【感想】

- ・多くの団体の素晴らしい話をうかがって感動しました。
 - ・花を育てることは、子どもを育てるように大変なことだと思いました。
 - ・人に興味を持ってもらえる花を、地域に定着させていくことが大切だと思いました。
- ※ 寺泊支所からのお知らせ3月号から、「各地域の花の見ごろ」をお知らせしていきたい。

○今後の取り組み

花づくり活動の具体的な目標を検討する必要がある。

今後も、継続して、寺泊だからこそその「花づくりでコミュニティづくり」を実現するための検討をすすめていきたい。

そのためには、さらに、地域で活動しておられる方々のご意見を伺っていきたい。

◎平成22年3月16日〔第5回目〕

【主な意見】

- ・寺泊地域全体が動くように、地域委員会が中心となって、今まで活動している団体から意見を聞いていく。そして、市民全体に対して具体的にどのようにしていくのかを、分科会で決めていく。
- ・花いっぱい実行委員会立ち上がるのであれば、タイミングがとても良いので、一緒にやることにより、分科会の活動もさらに飛躍して具体的な方向に進めていけると思う。
- ・寺泊にしかできない花づくりを提案していくために、花いっぱい実行委員会2010と組んでやる方法と、分科会で議論をしてから投げる方法といろいろあると思う。
- ・残した組織を分科会とブッキングして作るのが一番早いのではないかな。
- ・構想はあっても組織がないと動きようがない。
- ・花いっぱい実行委員会と一緒に活動をしていく。

◎平成 22 年 11 月 19 日〔第 1 回目〕

【主な意見・今後の取り組み】

・前回の分科会では、「花いっぱい実行委員会を立ち上げるのであれば、一緒にやることにより、分科会の活動もさらに飛躍して具体的な方向に進めていける。」と報告いたしました。しかし、平成 21 年度長岡市花いっぱいフェアへの活動を経て、同花いっぱい実行委員会 2010 の活動の地域核となる実行委員会の立ち上がりが諸般の事情により組織化とならなかったことから、分科会での方針を見直す必要が生じたため、今後の取り組みとして、『花』ネットワークの構築について協議いたしました。

【ネットワークの基本】

○ 寺泊地域の花づくり団体の意見交換・情報交換の場とする。

※ 「意見交換・情報交換の場」… 各々の団体の活動における「花づくり」に関する様々な経験や問題点、その解決策などを交換し、それぞれの団体の参考に資する場とする。

○ このネットワークは「全体で何かをやる」ためのものではなく、個々の団体の活動を尊重するなかで、お互いの持つ情報や悩みなどを持ち寄り、ネットワーク内で共有することにより、地域内の連携をとることからスタートする。また、『ふるさと創生事業基金』の一部を活用することも方法の一つとして、ふるさと創生事業実行委員会の参加も考える。その他、『緑の募金』資金の活用等、支所関係課も参加しサポート体制を整える。

○ 「全体で何かをやる」ということは、当初の目的としない。理由としては、もともと各団体自身が各々花づくりや街づくりを目的にそれぞれ設立されたものであり、各団体がそれらの団体に対し、当初から何かを行うということでネットワークを設立し、加入を促すことは、単に負担を掛けるだけでなく、地域住民の自ら考え、自ら活動することに対して相反すると思われる。したがってこのネットワークで「何かをする」ということについては、設立後のメンバーの意思に任せることとしたい。

○ このネットワークから今後、寺泊地域一体となった「コミュニティ」づくりも期待できる。

○ 後日、各団体の意見等を伺いながら『花』ネットワーク設立をめざす。